

# 豊川市の取組状況報告

豊川市  
在宅医療連携推進センター

## 構成

- 地域概要
- 地域の人口ピラミッド
- 地域の医療・介護サービス資源の状況
- 地域の課題と解決策
- 活動ロードマップ
- 平成25年度の活動評価
- 平成26年度の取組
- まとめ

## 地域概要

○豊川市

○人口184,898人、高齢化率22.4%

国勢調査H17→H22 0.3%の人口微増・・・しかし、  
年少人口、生産年齢人口がともに減少し、老年人口比率の増加が顕著

平成25年4月1日データ（事業計画時点）

○地域の特性

平成18年2月 宝飯郡一宮町と合併、平成20年1月 同郡音羽町、  
御津町と合併、平成22年2月 同郡小坂井町と合併

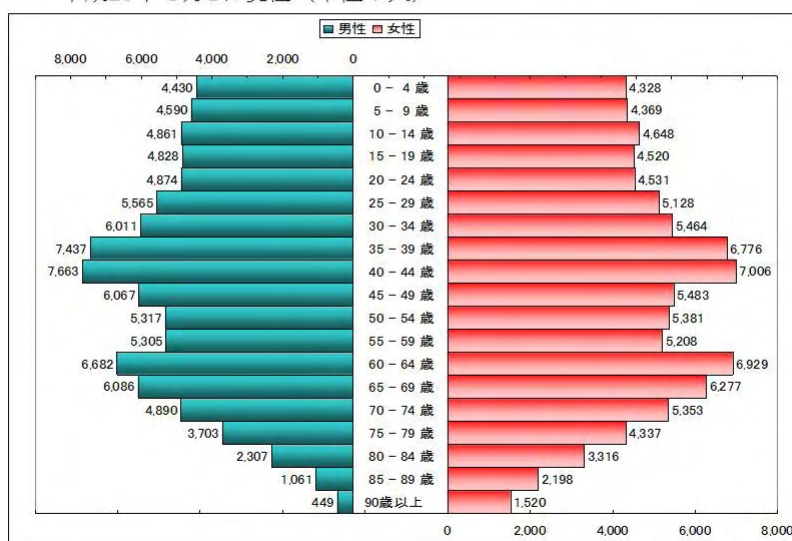
平成26年1月23日、在宅医療連携推進センターを設置

専従職員5名（事務3名、保健師1名、パートタイム1名）にて当該  
事業を行っている

地域資源等については現在とりまとめ中

## 地域の人口ピラミッド

平成25年4月1日現在（単位：人）



## 地域の医療・介護サービス資源の状況

(1) 医療機関(平成25年9月1日現在)

- ・病院 11箇所(在宅療養支援病院1箇所)  
(精神106床、結核8床、療養565床、一般650床)
- ・診療所 81箇所(在宅療養支援診療所15箇所)
- ・歯科診療所 78箇所(在宅療養支援歯科診療所3箇所)
- ・歯科併設病院 3箇所
- ・薬局 90箇所

※ 愛知県医療機能情報公表システムにより、往診、訪問診療を行っている医療機関は、病院8箇所、診療所27箇所、歯科診療所39箇所。

薬局のうち、在宅医療受入薬局は18箇所。

## 地域の医療・介護サービス資源の状況

(2) 介護サービス(平成25年9月1日現在)

- ・訪問介護 31事業所
- ・訪問入浴介護 5事業所
- ・訪問看護 6事業所(24時間対応4事業所)
- ・訪問リハビリテーション 6事業所
- ・通所介護 58事業所
- ・認知症対応型通所介護 10事業所
- ・通所リハビリテーション 8事業所
- ・短期入所生活介護 8事業所
- ・短期入所療養介護 4事業所
- ・小規模多機能型居宅介護 5事業所
- ・特定施設入居者生活介護 3事業所(119床)
- ・認知症対応型共同生活介護 10事業所(198床)

## 地域の医療・介護サービス資源の状況

・福祉用具・住宅介護	17事業所
・居宅介護支援事業所	47事業所
・地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	1事業所(29床)
・介護老人福祉施設入所者生活介護	7事業所(645床)
・介護老人保健施設	3事業所(293床)
・介護療養型医療施設	3事業所(197床)

※ 第5期介護保険事業計画に基づき、平成26年2月に認知症対応型共同生活介護2事業所(36床)、複合型サービス1事業所が、平成26年4月に地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護2事業所(58床)が、新規開設。

※ 現在、資源マップ作成中

## 地域の課題と解決策

### 1 医療と介護の職種間における壁

平成25年度に実施した多職種協働人材育成研修やネットワーク講演会の結果(別紙資料)より、多職種が集まる機会の必要性が再確認された。

引き続き機会の創出を図る一方、教育ニーズを捉えて専門性の高い研修を通して、職種間の壁を取り除いていく必要がある。

指定事業分類

【多職種連携の課題の抽出と解決策の検討】

【効率的で質の高い医療提供のための多職種連携】

# 地域の課題と解決策

## 2 在宅医療と介護の連携に関する住民向けの情報不足

平成25年度は地元新聞掲載など、多職種協働による医療・介護の連携の取組が紹介され、また、在宅医療推進啓発チラシ、認知症見守りファイルの配布等によって地域住民への周知啓発を行ったが、引き続き、事業の本質の周知を含め、工夫を凝らしたPRが必要と考える。

指定事業分類

【在宅医療に関する地域住民への普及啓発活動】

## 在宅医療推進啓発チラシ

**私と家族のきぼうを考えたたら在宅医療をうける選択肢があった**

**1 「在宅医療」って何!?**

在宅医療とは、さまざまな事情により病院が困難となった際に、医師を初めとする医療従事者が、居住する自宅や介護施設により、自宅や有料老人ホームなどで医療を行います。

在宅医療は、「認知症支援」、「日常の継続支援」、「急変時の対応」、「看取り」の4つの種類に分けられ、各種類に応じて、医療を始める医療従事者が適切にサポートします。

<b>継続支援</b> 入院歴が長い在宅医療が必要な高齢者や認知症高齢者の継続的なケアの提供 家族への支援	<b>日常の継続支援</b> 高齢者が住む自宅や介護施設での生活支援 認知症高齢者のケアの提供 家族への支援	<b>急変時</b> 急な病状や急変時の在宅医療 高齢者の一人暮らし、高齢者が住む施設での急変時の対応
<b>急変時の対応</b> 在宅医療従事者の迅速な応答による急変時の対応		<b>認知症</b> 認知症高齢者の在宅医療 認知症高齢者の一人暮らし、高齢者が住む施設での急変時の対応

※「多職種」とは、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、ケアマネジャー（介護支援専門員）などの医療や介護事業者の総称です。多職種で連携して、住民一人ひとりの希望に応じ、それぞれが専門性を生かすことで、居住者がより良い暮らしを実現することが可能です。

**2 まずは相談から**

ご本人が医療に関わりたくない、ご家族の負担を減らす方法をみんなで一緒に考えましょう

**かかりつけ医、主治医に相談する**

在宅医療を思い立ったから、一人で抱え込まず、かかりつけの医師や入居している病棟の主治医、看護長といった身近にいる医療従事者に「在宅で医療サービスを受けられないか」相談してみてください。

**行政に相談する**

市役所介護保険課、高齢者相談センター（地域包括支援センター）では、介護保険サービスを始めとした各種相談に応じます。また、必要に応じて適切な相談窓口をご紹介します。

**ケアマネジャーに相談する**

介護保険制度を利用している場合は、ケアマネジャーに相談してみてください。

**家族で相談する**

在宅での医師のケアや薬の管理、費用、介護の負担、看取りなど、不安なことを相談しておくことで、その不安を解消するためのサポートがしやすくなります。

**3 多職種が連携して在宅医療・介護を行います**

在宅医療・介護を選択された方（または家族）には、こんなにたくさんの方が関わっています

「在宅医療・介護は大家だから無理」と思ってしまうのは、本人やご家族の希望が少しでも多く、多職種が連携してみなさんをサポートします。

**身近な「かかりつけ医」を持ちましょう!**

難病病棟は、専門的な治療を受けるときには大変重なりになりますが、住んでいる近くにある診療所や病棟の先生を「かかりつけ医」として決めておきましょう。かかりつけ医を持っておくと、普段一人ひとりのこれまでの病状や生活状況、家族の状況などを把握し、病状を総合的に判断して適切なアドバイスをお伝えたり、専門的な検査や治療が必要などときには、それがあった病棟を紹介してつなげたりします。また、いざというときの住みにも対応してもらえることがあります。

豊川市高齢福祉部介護保険課 在宅医療連携推進センター（豊川市山崎2-2）TEL/0539-31710